

## 第2回 CNCP パワーアップセミナーで教えられたこと 「復興をめぐる気仙沼市民の活動、気仙沼方式に学ぶ」

(特非) シビルNPO連携プラットフォーム  
常務理事 教育研修委員会 委員長 有岡 正樹

セミナーの概要は本通信 20 号に掲載しましたが、その際の菅原昭彦氏の標記講演内容とそれに関連するワークショップ結果の要旨を報告します。なお、そのセミナーでの世古一穂理事の「市民連携のスキルとは？ ～参加のデザインを学ぼう～」については、本紙 P8「イベントのご案内」に記したように、2月23日(火)に東京で講演をしてもらいますので、CNCP 通信 3月号でその概要として改めて報告します。

### 1. 講演概要「復興をめぐる気仙沼市民の活動、気仙沼方式に学ぶ」

#### (1) 週に1回、計13回の勉強会

23年9月気仙沼地域の防潮堤計画が提示され、年末頃から24年7月にかけて各地で防潮堤の説明会が始まった。防潮堤そのものには反対ではないが、住民は余りにも急激な進め方について問題意識を持ち始めた。そんな2、3の説明会に出たが、100人ほど集まった市民は住まいや生活復興の話が少しでも聴ければと集まったのに、出てくる話は防潮堤の構造や建設の仕方といったまさに土木の話のみであった。国が決め、県がそれにしたがって住民を守ってやるのだとの印象しか残らなかった。



気仙沼地域の鳥瞰

これではあまりにも乱暴で、生業が成り立たなくなってしまうとの思いで立ち上げられたのが「勉強会」で、8月8日の第1回を機に10月13日の第13回まで、週1回以上の割合で継続した。

#### (2) 行政との話し合い

菅原氏が会長を務める気仙沼市の内湾地区復興まちづくり協議会では勉強会を通じて得た知識や情報を基に、「防潮堤で何を守るのか」をキーワードに行政と話し合ったが、話が空回りを続け暗礁に乗り上げた。その結果、協議会—運営会議—幹事会—専門部会(分科会)といった組織で、細部にわたり具体的・徹底的に議論し、一步後退二歩前進で一つずつ行政との合意に達して行ったとの経緯がある。

#### (3) 住民がベクトルを重ねられた背景

23年前地域の活動について教えを受けた世古理事との縁がその後も続き、気仙沼まちづくりなどの市民参加活動を展開してきた。それが地元NPOや協議会に発展して、震災前から防災・減災意識も共有できており、「質問は良いが主張(反対的)はダメ」といった集会の基本ルールを前提に、ある種の冷静さで協議会対応ができたということもある。そうした活動が多くのマスメディアにも取り上げられ、「高い防潮堤を作れば安心だし、大きな仕事が地元へ託されるのでは」といった質問に呆れて、「防潮堤以外に、地域が成り立つために人・モノ・金を掛けたいところは山ほどある。」と突き放したことが何度もあった。そうした外部との関係に一番気を使った。住民同士の対立に容易に発展していくことを恐れたからである。

#### (4) ワークショップ (WS) での質疑

参加者を一組 5~6 人の 4 グループに分けての代表質問による質疑応答は、以下の通りである。

【質】合意形成に関して、行政といっても国、県や市、そして市内部のトップと担当部署職員、さらには現場担当者それぞれの、意見の違いにどう対応したのか？

【回】県は知事主導の一枚岩だったので‘Yes と No’がはっきりしておりある意味でやりやすかったが、市はそれぞれの課の職員が、民間団体である内湾協議会の会合にオブザーバーとして参加して住民との認識の共有を図り、協議会が節目に出す提言書に対して、市長から反応もあった。とにかく行政にお願いしたのは、いつにかかって‘丁寧な対応’であった。

【質】気仙沼の復興には中長期的な視点が必要と考える。とりわけ内湾地区の 270 度にわたる景観を残し、環境を含めた産業政策を、住民との合意形成の中でどう話し合ったのか？

【回】優先順位を付けて何を一番大事にするかを議論した。協議会の下で、専門家を交えて詳細に議論した結果をもとに様々な提案を検討し幹事会に諮るといった、それこそ数えきれないほどのきめ細かいプロセスを経た。幹事会は構成自治会のトップ 3 を中心に漁業団体、商工会議所、観光関係といった組織の代表が加わって構成され、これが意思決定機関として非常に重要な役割を果たした。その結果が提言書にまとめられ関係行政に提案される。

【質】対立する委員間での意見の違いを調節する要点は？

【回】しっかりした議論とそれを支える専門家の意見、そして納得できる結論に持っていくプロセスが、合意形成の前提となる。

【質】それぞれの協議組織への女性の参加は？

【回】防潮堤の高さなどが問題となると部会等は、ほぼ 100% が男性で構成された。域内交通等生活面や観光関係などは、意識して声を掛けることにより結構女性の参加者があった。

## 2. セミナーの総括 (アンケート結果と盛り上がった懇親会)

ワークショップの後 15 分ほど時間を取って、そのセミナーのアンケートをお願いし、外部参加者 18 人中 16 人に回答をいただいた。その結果、①セミナー内容、②講義の分かりやすさ、③内容の実用性について、その賛否を質したところ、③で一人が否定的であったのを除き、‘やや’含めると全員からプラスの評価をいただいた。また、それぞれの質問項目について文章で思いを述べてもらったが、「参加と協働」については 8 人が、「気仙沼防潮堤関係」については 9 人の方が明確に関心を示された。それ以外にも CNCP パワーアップの今後についても多くの意見をいただき、「またぜひ仙台で」との意見に励まされた。



意見交換懇親会の風景

CNCP 会員関係者 2,000 円、非会員 4,000 円という決して安くない参加費をいただいていた企画が、参加者に有意であったことは、セミナーの後の意見交換懇親会に 16 名が参加いただき、セミナーを振り返り更なる意見交換に繋がったことにも反映されている。今後の活動に生かしたい。